

## 令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立沼津特別支援学校 伊豆田方分校 P T A					
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input type="checkbox"/> 小学部	<input type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	37人				

### 1. 使用状況

寄贈物品名	ボックスカホン
使用学年及び人数	高等部1～3年生 37人
使用頻度	週1回程度
使用状況	主に、学部で行う音楽の授業や部活動（総合文化部）、行事の時に使用している。
物品の使用による変化や効果	<p>音楽の授業では、ボディパーカッションと一緒に演奏する活動を行った。カホンの音色が加わることで、ボディパーカッションだけの演奏よりも、豊かな音色になっていた。カホンを初めて演奏する生徒は、不安はあるが挑戦しようとする気持ちを作るきっかけとなった。また、カホンを演奏したことのある生徒は、より良い音を出せるよう、探求する姿を見ることができた。</p> <p>総合文化部では、歌唱の時に、一緒に演奏をする活動を行った。カホンを一緒に演奏することで、より盛り上がり、生徒たちに一体感が生まれた。</p> <p>行事では、「三年生を送る会」の出し物で、歌や太鼓演奏と一緒に、カホンを演奏した。こちらもカホンが加わることで盛り上がった。また、生徒はみんなの前で演奏したことで自信が付き、達成感を感じることもできた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>1年目は、歌唱やボディパーカッションと一緒にカホンを演奏する活動を行うことができた。今後は、他の楽器と組み合わせた演奏にも挑戦し、一緒に演奏する楽器に合わせたカホンの鳴らし方を考えるようにしたい。また、ただ演奏するだけでなく、活動の幅を広げられるよう、カホンを使用した創作の活動も取り入れていきたい。</p> <p>カホンに興味を持っている生徒も多いため、学校内の活動だけでなく、余暇活動にも繋げていけるようにすることが、今後の課題である。</p>
その他希望や所感など	カホンは様々な音楽シーンで使用されており、生徒が目にする機会もあると思われる。カホンの演奏をしたことが、様々な音楽に触れるきっかけになることを期待している。

## 2. 活用の様子



音楽の授業でのカホン演奏の様子

行事でのカホン演奏の様子

